

1 はじめに

(1) 吉田地区の概要

益田市の北西部に位置し、JR山陰線とJR山口線が合流する益田駅があり、行政、オフィス、店舗、医療機関が集中している市の中心部である。

人口は益田市全体の約3割にあたる約14,000人である。益田市全体の人口は減少しているが、市内にある20地区で唯一人口が増えている地区である。新生児も増加している。

学校は小学校が2つ、中学校は1つである。高校は無い。

自治会数は39、自治会加入率は約81%である。

(2) 背景

ア 地区内の人口は増加している。そのために、以前からの地縁でつながっている人の比率が低くなっている。

イ 少子高齢化、核家族化、アパート住人の増加、自治会未加入世帯の増加、あるいは、生活感の違い、働き方の多様化などにより、住民同士のつながりが希薄になってきている。

ウ 益田川は、吉田地区民の共通インフラであり話題を共有しやすい。

エ 吉田小学校の5年生は「益田川」を総合的な学習でテーマにしている。

オ 益田川の景観を美しく保とうと清掃活動をおこなっているNPO、地元有志の会がある。

2 めざしていること

(1) 人口が多い地区での「住民同士の新しいつながりづくり」。

(2) 益田川についての学びを深める。

3 活動の実際

年間事業内容と様子は次のとおりである。

(1) 益田川清掃作業に参加（7月）

地元の飲食業生活同業組合が主催し益田川下流域（河口～1.5km）清掃が実施された。公民館では職員が清掃に参加するとともに地域の方への参加呼びかけをおこなった。（約200名参加）

(2) 益田川エコツアー（7月）

親子を対象に、バスで益田川上流から河口に移動して実際に川の様子を見てまわった。ダムの役割、川を汚さない食後のひと手間等々も学んだ。また、川に入ってガサガサ体験をして、魚やエビを捕まえた。



益田川エコツアー

(3) 廃油石鹸づくり（&益田川の説明：教室講座／出前講座）（9～12月）

川への排水を意識してもらうために、益田川のお話と廃油石鹸づくりをセットにして、公民館や地区内の自治会において講座を実施した。



廃油石鹸づくり

(4) 益田川河口外での魚釣り大会（共催）
（9月）

地元NPOが主催する「中須海岸クリーンアップ魚釣り大会」に親子を含む約50名が参加した。キス釣りを楽しむ一方で、魚釣りのマナーや釣り糸などのごみは持ち帰ることを学び、海岸清掃もおこなった。

(5) 益田川距離標設置（11月）

益田川の土手をウォーキングやジョギングする人に目安となり楽しさが増すように、河口付近の月見橋から500m毎に3km地点まで右岸左岸ともに距離標を設置した。

(6) 益田川ふれあいウォーク大会（11月）

益田川の下流域土手を約4km歩くウォーキング大会を実施した。スタート直前まで雨が降り参加者は少なかったものの川を再認識してもらったきっかけとなった。当日は、下流域水環境再生協議会が主催する益田川清掃も実施され小学生約20名を含む約250名が益田川下流域に集結した。



(7) 吉田小学校益田川マラソン大会支援
（1月）

吉田小学校6年生82名が、男女に別れて、小学校近くの益田川土手を走った。登下校時にお世話になっている近所の見守り隊の皆さんに、走る際の安全確保と誘導をお願いした。

(8) よしだ公民館・地区合同発表会で益田

川の現状報告と展示（2月）

公民館や地区で活動されているグループの1年間の生涯学習の集大成として発表会を10年前よりおこなっている。益田川および川での活動をよく知ってもらいたい思いから、生物、水質についての解説と展示をおこなった。



4 成果と課題

(1) 成果

- ア 新しい住民を交えた「つながりづくり」の活動をスタートできた。
- イ 課題が多く見つかった。

(2) 課題

- ア 5～10年の活動の積み上げで成果を感じるようになると考えている。
- イ イベントでの集客は、他の団体のイベントとの日程調整も含めて難しい。
- ウ 公民館単独ではなく、関係団体とのコラボは必須である。
- エ 実施した事業について積極的な情報発信が必要である。
- オ 子育て層世代を引き出す事業・工夫が必要である。
- カ つながりが強くなったと思われる測定方法を検討すべきである。

（文責：吉田公民館長 正田 暁美）